

ノーサイド

校長 廣 美穂

ミラノ・コルティナ冬季オリンピックの熱狂に沸いた二月。早朝から届く日本選手の躍動に、勇気と元気をもらう毎日でした。競技を終えた選手たちが、国境を越えて笑顔で称え合う光景。その画面の裏側には、人知れぬ涙や葛藤があったはずです。それでもなお、多くの選手が口にする「感謝」の言葉に、私は「ノーサイド」の気高い精神を感じずにはいられませんでした。

「ノーサイド」…ラグビーの試合終了を告げるこの言葉は、日本独特の表現で、「試合が終われば、敵も味方もなく、ラグビーを楽しむ一人の人間として互いを敬う」という精神を表しています。私自身、息子が幼少期にラグビーを始めたことをきっかけに、この競技の奥深さに魅了された一人です。後ろにしかパスを回せない理不尽さ、体を張ったタックルの応酬、十五人がそれぞれの役割を全うする組織力。泥まみれになり、押し戻されながらも、果敢に前へ前へと進む選手たち。しかし、「ピッ、ピッ、ピーッ」とレフリーの笛が鳴った瞬間、どんなに激しい攻防戦も終わりを告げ、誰もが清々しく握手を交わす、その瞬間に立ち上がる「敬意」のドラマにいつも胸が熱くなるのです。

振り返ると、この一年、南中という「フィールド」でたくさんのドラマがあり、多くの「涙」に出会いました。その中でも、私の心に深く刻まれている二つの出来事があります。一つは、学校総合体育大会で力を出し切れずに敗退したある部長の姿です。「お疲れ様」と声をかけた瞬間、堰を切ったように大泣きしたあの生徒。悔しさを押し殺し、部長としての責任を果たそうとしていた心が、その瞬間に解放されたのかもしれませんが。しかし数日後、一人、黙々と走り込む姿がありました。葛藤を力に変えた努力は、後の大会での自己新記録という見事な「トライ」に繋がりました。もう一つは、面接練習での出来事です。「三年間で一番成長したことは何ですか。」の問いに、ある生徒が親友との大きな喧嘩に悩み抜いた過去を打ち明けてくれました。「親友とけんかをして仲が悪くなってしまいました。辛くて、辛くて…」当時の心境が蘇ったのでしょうか。私の前で大粒の涙が溢れ出しました。しかし、言葉は途切れることなく続きました。「そのときに逃げてはいけない、どうすればよいのか必死に考えました。……今、前よりも仲良くなれたことが一番の誇りです。」と涙を拭い、最後は清々しい笑顔で答えきったその姿。それは、自分の中の壁を乗り越えた、まさに心の中の「ノーサイド」が訪れた瞬間に立ち会えた喜びでした。一人一人が自分のステージで自分と向き合い、他者と関わり、時には傷つきながらも、確かな成長を遂げてくれた一年でした。締めくくりとなるこの時期、ユーミンこと歌手の松任谷由実さんの名曲『ノーサイド』の一節が私の頭を駆け巡ります。

「同じゼッケン 誰かがつけて また次のシーズンを 駆けてゆく……」と。

四月になれば、生徒たちが今使っている教室も、机・椅子も、出席番号も、すべて、後輩たちへと受け継がれ、新たなまっさらなドラマのキックオフの合図がやってきます。その時(とき)の流れと静かに幕を下ろすこの季節の空気感がこの歌詞に重なってならないのです。

まもなく、令和七年度という長い試合の終了を告げるホイッスルが鳴ろうとしています。卒業する三年生には、挑み続けた自分に誇りを持ち、新たなフィールドでも「敬意と感謝」を忘れない堂々たるプレーヤーであることを、在校生には、先輩の背中から受け取るバトンを大切に新たな「南中」の色を創り上げていくことを願っています。学校生活に、単純な「勝ち負け」はありません。あるのは、全力で取り組んだという事実と、共に歩んだ仲間への敬意だけです。この一年、本校の教育活動を支えてくださった全ての皆様に、ノーサイドの精神をもって心より感謝申し上げます。

そして、令和八年度も、どうぞよろしく願いいたします。

3月の予定 (完全下校17:30)

日	曜	行事予定	部活動
1	日		
2	月	生命の講演会 (3年)	×
3	火	県公立高校追検査	○
4	水	地域学校保健委員会	○
5	木	3年生を送る会	○
6	金	入学許可候補者発表	○
7	土		
8	日		
9	月		○
10	火	3年生と語る会	○
11	水	卒業証書授与式予行	○
12	木	卒業証書授与式準備	×
13	金	第47回卒業証書授与式	×
14	土		
15	日		
16	月		○
17	火		×
18	水	全国学力調査事前調査 (2年)	○
19	木	1,2年, はばたき保護者会 学校運営協議会	○
20	金	春分の日	
21	土		
22	日		
23	月	給食終了日	○
24	火		○
25	水	学年集会、大掃除	○
26	木	修了式	×
27	金	学年末休業日 (~31日)	
28	土		
29	日		
30	月		
31	火		

★スクールカウンセラー来校日 3/4 (水)、11 (水)

4月の主な行事予定

- 1日 (水) ~ 7日 (火) 春季休業日
- 8日 (水) 始業式、入学式
- 9日 (木) 対面式・新入生歓迎会
- 10日 (金) 給食開始
- 17日 (金) 保護者会、PTA執行部役員決め

保護者会のご案内

日時：令和8年3月19日 (木) 14時~15時
 場所：体育館 (生徒及び1, 2年生の保護者が参加)
 内容：進路について
 ご来校お待ちしております。

アンケートのご協力ありがとうございました。

令和7年度 上尾市立南中学校 学校評価

1 実施時期

(1) 自己評価

令和7年12月

(2) 学校関係者評価

令和8年1月28日

2 実施内容

(1) 自己評価

ア 自己評価の項目を肯定的評価からA・B・C・Dの記号を選択

イ 参考として、生徒アンケートを実施し、その項目を肯定的評価から4・3・2・1の数値を選択

ウ 参考として、保護者アンケートを実施し、その項目を肯定的評価から4・3・2・1の数値を選択

(2) 学校関係者評価委員会を開催

自己評価及び事前の生徒アンケート、保護者アンケートの結果を学校関係者評価委員会で説明を行った。自己評価における課題、改善策等を提案した上で、学校関係者評価委員からご意見・ご感想をいただいた。構成委員は、聖学院大学准教授、元PTA顧問、大谷本郷自治会長、上尾市人権擁護委員、学校応援コーディネーター、PTA副会長、地域の住民、住友理工株式会社員の8名である。

3 公表方法

HPでの公表

4 成果

《自己評価の結果》

(単位%)

	評価項目	3、4割合		評価項目	3、4割合
1	学校教育目標と学年・学級目標	92	18	授業改善	92
2	学級目標の達成	100	19	道徳教育	80
3	豊かな人間性育成	100	20	「チーム南」として	96
4	たくましい心身の育成	100	21	生徒との向き合い	100
5	考え・学び合う力の育成	96	22	危機管理	96
6	基礎学力の定着	96	23	学習環境	96
7	学力向上プラン策定実行	80	24	校内巡回	72
8	ICTの活用授業	96	25	校舎内外の整理整頓	92
9	学習形態の工夫	96	26	安心・安全な学校	88
10	問題解決的な学習	92	27	ヘルメット着用	80
11	自立・自律の指導	100	28	あいさつ、信頼関係づくり	100
12	規律ある態度の指導	100	29	学校だより、学級通信、HP	72
13	時間を守る生徒の育成	96	30	ボランティア活動	48
14	清掃	72	31	地域との連携	64
15	落ち着いた学校	88	32	勤務時間の意識	88
16	自己研鑽	96	33	働き方改革	60
17	自校の課題解決	92			

3、4の合計で80%以上の評価項目は、33項目中17項目である。

5 今後の課題と改善策

	課 題	主 な 改 善 策
1	「14清掃の意義を学期ごとに計画的に指導し、生徒の意識を高めた。」	<p>肯定的な評価の割合が、前年度の 92%から 72%に低下しており、本校の課題として捉えている。要因として、教育課程編成において放課後活動の充実を目的に清掃時間を削減したことに加え、活動目標を「自問清掃」から「ぴかぴか清掃」へと変更したことが挙げられる。これにより、生徒の意識が「勤労の貴さや自己を見つめる態度」という情意面から、「清掃結果」という外形的な成果へと偏り、今回の評価につながったと考えられる。</p> <p>今後の改善策として、生徒会活動として全校集会において清掃の意義を再確認し、高めたい。また、互いのよさや他への貢献を認め合う活動を展開し生徒の自己有用感を高め、学校生活の充実を図る活動としていく。</p>
2	「33働き方改革の推進によって、生徒とのふれあい、授業づくり、授業づくりに時間を割くことが増えた」	<p>「確かな学力」の育成状況に係る評価は向上している。(項目3、4、5、11、12、19)また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組について、肯定的な評価が得られている。(8、9、10、11、12、18)しかしながら、教員の在校等時間の短縮や指導体制の整備に関わる項目については評価が低下しており、目的とする「生徒とのふれあい、授業づくりに時間を割くことが増えた」について、評価が下がっており、課題である。引き続き、教育課程の編成の見直しやカリキュラム・マネジメントを組織的かつ計画的に推進することで、生徒一人ひとりと向き合う時間や授業づくりのための時間を着実に確保していく。</p>

6 学校関係者評価委員の意見・感想等

(1) 意見・感想等

【意見】

- ・年度によって数値が上下する項目や課題については、原因分析が必要である。また、良化傾向にある取り組みについては、好事例として共有・横展開することで、さらに学校が良くなると考えている。
- ・評価結果を受け、子供たちがより良い学校生活を送れるよう、様々なアイデアや工夫を皆で考えていけると良い。

【感想】

- ・親の安心はお子様にも必ず伝わると感じます。学校評価の結果から良い教育をして頂いていると実感した。
- ・大きな悪化は少なく学校生活は安定していると感じる。
- ・保護者が安心して子供を通わせている様子が伺える。良い教育をされていると実感している。
- ・先生方が熱心に研究に取り組み、生徒の自立を促す授業を展開している点が素晴らしい。先生方の風通しの良い関係性が学校全体の良い雰囲気につながっていて嬉しい。
- ・地域とのつながりや、先生・生徒・保護者の連携が取れていることを感じる。登下校時の元気な挨拶から力をもらっている。
- ・学校は総じて適切に運営・評価されている。特に教職員が高い意欲を持って自己研鑽に励み、質の高い教育を展開していることが理解できる。
- ・学校課題研究の成果がしっかりとアンケートの結果に表れており、大変良いと感じる。

(2) 評価

- ・本校の学校評価は妥当である。